



確かな学力の向上をめざして【6月】

中部版スクラム教育事業（第8期）がスタートしました

「中部版スクラム教育事業」とは、中部地区5市町教育委員会、小中学校長会、高等学校課、中部教育局でスクラムを組み、中部地区における教育課題の解決をめざして連携、協働して進めている取組です。平成24年度からスタートし、令和8・9年度を「第8期」として取り組んでいます。各研修に参加される先生や訪問の対象となっている先生方には、この取組での学びを校内に広げていただきますようよろしくお願いします。

中部地区における教育の質の向上と課題解決に向けて

子どもたちの
確かな
学力の向上



不登校及び
問題行動等の
教育課題の解決

柱1

確かな学力の
向上

柱2

生徒指導における
対応力の向上

柱3

教職員の
指導力の向上

- ・研究推進担当者研修会
- ・夏季学力向上研修会
- ・特別支援教育研修会
- ・生徒指導担当者研修会
- ・研究推進担当者訪問
- ・講師訪問
- ・市町ごとの研修、ワークショップの共同開催
- ・計画訪問、要請訪問及び県事業に係る訪問



各研修・訪問等の取組は、3つの柱すべてに相互に関わり合い、相乗効果を生み出します

今年度は上の3つの柱を設定し、先生方の声も取組の成果を測る指標とします。学校の実態やニーズに応じた柔軟な支援をしていきますので、ご要望等ありましたら、市町教育委員会または中部教育局までご連絡ください。

中部は
ひとつ！



Point

- ★各研修会の参加者が、研修内容を学校に持ち帰り、校内で還元し深めていくことが大切です。
- ★中部版スクラム教育事業で実施する各研修や訪問等を、校内の取組や学校の研究推進のPDCAサイクルと関連付けて、課題解決に向けて協働していきましょう。





確かな学力の向上をめざして【6月】

ターニングポイントとしての6月 ～カギは“言葉かけ”～

6月は、4月～5月の指導の結果が子どもの姿となって表れ始める時期です。「今のやり方を継続していけばよいのか、それとも軌道修正が必要か」を子どもの姿から見極める、重要なターニングポイントとなる月です。これまでの取組をただ継続するだけでなく、一度立ち止まって子ども達や集団の現状を丁寧に見取り、子ども達への関わりをアップデートさせる月にしていきましょう。

今、子ども達は主体的に学びに向かっていますか？ 何か心に不安やしんどさを抱え、小さなSOSを発している子はいませんか？ そうした子ども達の状況を日々キャッチし対応していくために大切なことのひとつが、子ども達への言葉かけです。例えば、場面や状況に応じて以下のような言葉をおかけることにより、子ども自身に語らせ、内面を引き出していくことができます。

言葉かけの極意 ～5つの「どう」が引き出す子どもの内面～



Point 子ども達への言葉かけは、単にその子の内面を引き出すことにつながるだけでなく、授業において子ども達の主体性を引き出したり、自己調整を促したりすること等にもつながります。子ども達との関係づくりはもちろん、安心感のある集団づくり、子どもが主体となる授業づくりなど、あらゆる場面に通じます。子どもの内にあるものを引き出し、子どもに寄り添う姿勢を大切にしましょう。



ターニングポイントとして、自己の関わりを振り返ってみましょう！！（以下一例）

- 子ども達の声を聴こうとしていますか？（指示や説明等、言って聞かせることが多くなっていませんか？）
- 子ども達が見せる小さなサイン（落ち着きのなさ・問題行動等）を「よくない姿」「わがまま」等と捉えていませんか？（子ども達が発するSOSであり、どうしたらその子の力を発揮させられるかを考えるきっかけです。）